

パソコン部門

総評

今年は応募数の非常に少ない年となりました。その中ではホームページの作品が大半を占めることとなりました。また、単なる研究発表をまとめたものや、自己紹介的なホームページの作成という作品が多く、そういう点では残念でした。今回の受賞作品は、その中にある、まず発想と可能性で抜きん出たもの、そしてプログラムの組み方が非常に丁寧で完成度の高いものという評価をしました。インターネットの普及や、より使いやすいツールの開発などで、取り組み難居は低くなっています。この環境の中で、どのような表現をしていくかが大切です。

来年は今年以上に充実した研究が寄せられることを期待します。



文部科学大臣奨励賞

Java日本語翻訳機「Interpreter M」の製作

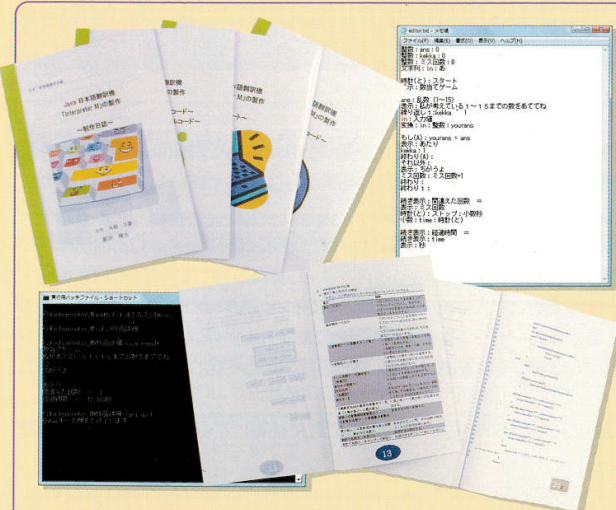
神奈川県 慶應義塾普通部 3 年

新井 棟大

タイトル通り、日本語の命令を使い、日本語を「日本語翻訳機」で動かす「日本語翻訳機」です。

「表示」や「繰り返し」という日本語で書かれた命令を Java のソースコードに変換することができるプログラムです。作者はまず Java としてのプログラムを作成して、今度はその Java のプログラムを日本語から自動的に作ることはできないかと思い、その思いが今回のプログラムを作るポイントになりました。日本語を Java のプログラムに自動的に生成するというには、まだまだできることも少なく、開発途上といえる部分もありますが、今後の大きな可能性を感じさせます。

特に、既存のツールを使って何かを作るといことはなく、その作成するためのツールを、より使いやすいように改良する、という発想がすばらしく、またそれを実際に実現させた力作です。



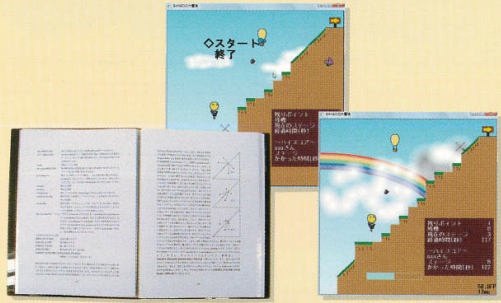
子どもの文化・教育研究所 理事長賞

プログラムの製作

神奈川県 慶應義塾普通部 3 年

濱口 恭一

「BAND の大冒険」というスラングでジャンプしながらステージをクリアしていくアクションゲームのプログラムです。市販のゲームでは当たり前のようになっている「重力」という概念を組み込み、壁への跳ね返りなども表現しています。非常に丁寧に作られた力作です。レポートを詳しく書いてあることにより、どのようなアイデアを使って衝突の判定をするプログラムを考えただのかや、実際の製作過程の中で苦労したことなども分かりやすく伝わりました。今後は、ゲームはどのような工夫を加えると、楽しく感じるかという部分を考え、オリジナルのアイデアを美装していけば、さらによい作品になるでしょう。



中央出版株式会社 社長賞

該当者なし

残念ながら、今回は該当作品がありませんでした。次回、さらにレベルアップした作品がたくさん応募されることを期待します。パソコンという機械のできることをいかに作品として作り出していくか、そこ、いかにして自分自身のオリジナルのアイデアを作り出していくかが、評価のポイントとなります。新たな、オリジナルのアイデアがあふれた作品を期待します。



優秀賞

ベタ育成日記

千葉県 千葉市立小中台小学校 4 年

倉富 智大

ベタという熱帯魚の育成日記を、インターネット上のブログ形式で行なったものです。ブログ形式にすることで、見知らぬ相手からコメントやアドバイスをもとめ、今までにない新しい切り口と広がりを感じました。自分の関心のあることをインターネットを通して発表したり、ページを見た人の意見をもらう方法として、Web の掲示板やブログなど様々な方法があります。インターネットは、子どもだけではなく、大人にも、親の万などの協力を得て、ネットワークなどを学びながらインターネットの活用が広がることに期待しています。

